

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		NPO法人チャトン キッズサポートsora				公表日	令和8年2月19日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・国の基準以上のスペースを確保している。 ・人数や利用児の様子に応じて、部屋を選択している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		・国の基準以上のスペースを確保している。 ・毎回、活動内容や利用児の様子に応じて職員配置を行う。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・各部屋に名前をつけ、イラストや写真などの視覚支援を多く取り入れ、主体的な行動に繋がるようにしている。	・建物の構造上、階段や段差のバリアフリー化は難しいが、ネットや柵の設置、必要に応じて支援を行い、怪我防止策を講じている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・モノを出し過ぎない、掲示物の量など、視覚刺激を都度調整している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・常にクールダウンや静養ができる環境を確保している。 (個室、パーテーション等)		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		・共通認識で業務を進めていけるよう、都度の話し合いの時間を設けている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・職員で共有する場を設け、改善点を検討、実行、評価している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・職員で共有する場を設け、継続すべき点や改善点を検討、実行、評価している。	・今後も定期的に業務の見直しを行い、業務改善に努めていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			・効果的な評価ができるよう検討中。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・研修情報の共有や委員会などを開催し、支援の質の向上に努めている。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・ホームページにて公表を行い、広く周知できるようにしている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・臨床心理士や言語聴覚士の助言もいただきながら作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・共有時に、職員で話し合いを行い、今後の支援内容を決定している。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・職員間で評価を行いながら共通理解を深めている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・臨床心理士や言語聴覚士の助言をいただきながら、より専門性を高めている。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・活動プログラム立案時にも、ガイドラインの周知を行い、共通理解を深めている。	・入職者に対しても、都度丁寧に伝えていく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・全職員で話し合いを行い、共通認識で進められるようにしている。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・連続性のある活動を設定し、利用児も見通しや意欲、期待が持てるようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		・職員間でも、声をかけあい迅速に対応できるようにしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・役割、活動の目的を再度共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・活動終了後に、共有するようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・利用時には、毎回支援システムを活用して記録をとっている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・定期的なもの以外にも、送迎時に様子や支援内容等をお伝えしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		・様子の共有や意見、今後の見通しまで話し合い、ひとり一人の発達段階に応じたきめ細やかな支援が提供できるようにしている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		・様々な場面で自己選択を設け、意欲の向上や自立心、責任感等に繋がるように支援している。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・適任者が出席している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・法人、事業所単位で体制を整えている。また、契約時に協力医や関係機関との連携について同意を得ている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・年度始めに、ご挨拶をする機会や必要に応じて情報共有する場を設け連携が図りやすい関係構築に努めている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		・移行支援シートを活用しながら、相互理解に努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		・これまでに前例はないが、情報提供できる体制は整えている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		・研修会へ積極的に参加し連携が図りやすい体制を整えている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		・イベントの開催で交流がある。また、利用児の関係機関とは情報共有を行っている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		・研修会の情報収集を行い参加できるよう努めている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・活動時の写真や動画を併せて、様子や支援内容を共有している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	・相談業務は都度行い、参観する機会も設け必要に応じて臨床心理士も同席し、対話ができる場を設けている。	・プログラムについては実施の方向に向けて検討していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・契約時に丁寧に説明をしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・主訴やニーズになどの聞き取りを丁寧にやっている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		・定期的な面談を通して、相互理解しながら進めている。	・支援場面や活動の様子を積極的にみていただく。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・定期的な面談以外にも、随時相談を受けた際は、ケース会議や必要に応じて関係機関との連携を図り、迅速に対応している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		・自由参観期間を設けた。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・対応体制を視覚化し、事業所内の誰でも目につくところに掲示している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		・利便性から、主にSNSを活用して情報発信を行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・個人情報に関する書類は、鍵付き書庫にて保管している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・必要に応じて、口頭での伝達に加え写真や動画も交えて伝え理解が深まるようにしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		・個人情報に配慮しながら、イベントや地域交流の場を企画していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・年度毎に訓練スケジュールを設定している。	・定期的にマニュアルの周知や訓練の様子をお伝えしていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・年度毎に訓練スケジュールを設定している。 ・内容の見直しを定期的に行っている。	・定期的にマニュアルの周知や訓練の様子をお伝えしていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・契約時や定期的なアンケート、モニタリング時等にて新しい情報を把握できるようにしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・契約時や定期的なアンケート、モニタリング時等にて新しい情報を把握できるようにしている。	・万が一に備え、対応訓練を実施していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・安全計画を作成し、年間スケジュールに組み込んでいる。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・契約時に丁寧に説明をしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・迅速に対応、共有を行い防止策の見直しも含めて話し合いをしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・委員会を設置し、定期的に研修を実施している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		・現時点で対象児はいないが、定期的に研修の取り組みは継続して行っていく。	